

## 第67回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成27年6月23日（火）13時30分～15時40分
2. 場 所 福島大学事務局棟 第2会議室
3. 出席者
  - 【学外委員】阿部正、清水潔、杉原陸夫、田原博人、富田孝志、林由美子、山崎捷子、渡邊博美
  - 【学内委員】中井勝己、功刀俊洋、三浦浩喜、神子博昭、青柳隆夫、千葉養伍、久我和巳、真田哲也、二見亮弘、中村信一
  - 〔オブザーバー〕 副学長：千葉悦子、小沢喜仁  
監 事：平山健一、高橋宏和
4. 欠席者
  - 【学外委員】菅野典雄、近藤貴幸、八島洋一
5. 議 事
  - 【審議事項】
    - (1) 第3期中期目標・中期計画（最終素案）について
    - (2) 平成27年6月期期末特別手当に係る役員の業績評価について
    - (3) 平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
    - (4) 平成26年度決算について
    - (5) 平成28年度概算要求について
  - 【報告事項】
    - (1) 平成26年度期末監事監査結果について
    - (2) 平成26年度卒業生・修了生の就職状況等について
    - (3) その他

議事に先立ち、中井学長から、挨拶があった。

### 【確認事項】

第66回経営協議会議事要録について、今年度の留学生数を61名と修正することとし、確認した。

## 【審議事項】

### (1) 第3期中期目標・中期計画（最終素案）について

中井学長から、資料1に基づき、3月13日開催の文科省担当職員による学内説明会、4月30日の文科省事前相談、6月3日の文科省事前相談内容を踏まえ作成した第3期中期目標・中期計画（最終素案）について、提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(以下、◇はその議題に関する学外委員からの質問・意見、◆は大学側の回答等を表す。)

◇教員養成や人文社会系の見直しが現在話題になっている。これから児童生徒数が激減してくる中で、当然の動きだと思うが、その中で福島大学は学類の見直しをしていないように見えるが、それで済むのか疑問なところがある。文章からは改組などの考えが見えないが、今のところ構想等はないということなのか。素案提出後の秋以降に、計画の作り直しを文科省から言われるのではないか。

◆他大学の学長に聞いてみると、第3期へ向けて、ゼロ免課程については廃止し、それを原資として新たな課程を作るといったような廃止や改組の動きが全国的にある。委員がおっしゃるように、すでに昨年度から改組の動きが見られる大学はかなりあるというのが現状である。

本学については、これからの教職大学院設置の構想に関連して、既存の研究科をどうするのか、人間発達文化学類（現在定員270名）にも何らかの改組をすることが今後出てくるかもしれないという予想は個人的にしている。しかし学内において改組といったような構想や話は現在出ていない。教職大学院の構想が固まってきた時点で、文部科学省と何らかのやり取りが出てくることはあると思う。必ずしも統廃合をするということではないので、教員養成系の大学間の連携や、今後教員養成系がどのように社会、地域に貢献し展開できるのか、可能性の議論をしていきたい。

### (2) 平成27年6月期期末特別手当に係る役員の業績評価について

中井学長から、資料2に基づき、平成27年6月期の期末特別手当の手当に係る役員の業績評価について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

### (3) 平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

功刀理事から、資料3に基づき、平成27年6月末が提出期限となっている「平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書」について、提案があった。

審議の結果、一部修正の上承認された。

◇年度計画の進捗状況がほとんどⅢ（年度計画を順調に実施している）の評価になっているが、これは計画を上回って実施し、評価を上げられるものがないということか。また計画をメリハリのあるものにして、指標を具体的なものにできるところがあるのではないか。

◆24ページの【年度計画 53】OECD東北スクール関連に関しては、世界規模での事業であり、評価をⅣにしたいと考えている。

◇9ページの【年度計画 44】女性職員を職場環境の改善するための「研究支援員制度」については、どの位活用されているのか知りたい。また女性だけでなく、男性職員にはどのような対応をしているのか。

◆平成26年度は準備期間であったため活用はない。また、男性職員も活用できる制度となっている。

◇17ページ「メールマガジン『学長室だより』による学長からの発信」は良い取り組みであると思う。第2号に記載のあった学長主催の「平成26年度大学改革セミナー」は、テーマが「地域の大学」という福島大学に深く関わる良い内容であった。もう少し参加者を増やし、こういったセミナーをきっかけに問題意識を共有してほしい。

◆今回のセミナーは入試や卒業などの業務と時期が重なったこともあるが、やはり参加教員は少なかった。教員一人一人の当事者意識を高めてもらうよう、呼びかけを一層していきたい。

#### （4）平成26年度決算について

功刀理事から、資料4に基づき、平成26年度決算について提案があった。  
審議の結果、原案のとおり承認された。

◇どこの大学でもそうであるが、今回の決算書だけでは、現実に教員が使用している金額の状況などが分からない。全体では増えているようでも、実際の教員の研究費は減っているともあり、教員の教育研究環境が分かるような資料があるといい。

◆IR室で財務分析をしている大学もあると聞いているので、今後設置予定のIR室

を通して、福島大学でも財務データ分析できるよう提案をしていきたい。

◇人文系の大学は、病院経営をしているような大学よりも経営や財務データの分析力が劣るように思う。財務に関して、セグメントに分け、経年度などを分析することが重要である。

(5) 平成28年度概算要求について

功刀理事から、資料5に基づき、平成28年度概算要求について提案があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇資料5の1について、第3期中期目標期間の運営費交付金の配分の仕組みは、大学を特色ごとに3グループに分け、優秀な取組をする大学に重点的に運営費交付金を分配するということであり、大学が自由に使える予算が減るという理解でいいのか。

◆基本的にはそうである。現段階で具体的な予算規模は明らかでないが、交付金が増えない中でそれぞれの大学が拠出した額の方が配分されないとすると、困る大学も出てくるだろう。

【報告事項】

(1) 平成26年度期末監事監査結果について

高橋、平山両監事から、資料6に基づき、学長へ報告を行った平成26年度期末監事監査の結果について報告があった。

(2) 平成26年度卒業生・修了生の就職状況等について

三浦理事から、資料7に基づき、平成26年度に卒業・修了した学生の就職状況等の概要について報告があった。

◇全国の国立大学を見ても、福島大学は公務員が多く、特色であるだろう。また共生システム理工学類でも公務員が多くなっているようだ。これも地域貢献の福島大学の特色として評価してもよいのではないか。

◆地方公務員は地方を支える人材であり、地方創生が言われる中において、地域社会の人材を輩出している人文系の大学として大きく役割を果たしているだろう。しかし理工学類においても公務員が多いことについては学内でも議論しているところであり、学生には、メーカーの技術者など学んだことをより活かせるところを就職先の選択肢として考えられるような環境づくりを行っていきたい。

(3) その他  
特になし